

CASBEE-建築(新築)2016年版
 相模中部消防組合消防本部(警)新庁舎建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	Q1		Q2		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境			0.40			2.6
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.1	0.35	-	-	2.1
2.1 室温制御		2.5	0.50	-	-	
1 室温	共用:設定温度(冬期)22°C、(夏期)26°C	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		1.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.3	0.25	-	-	2.3
3.1 屋光利用		1.8	0.30	-	-	
1 屋光率		1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	-	-	
1 屋光制御		2.0	1.00	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.3	0.25	-	-	3.3
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を使用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		1.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サステナビリティ			0.30			2.9
1 機能性		2.7	0.40	-	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高=2.7m	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	3.4
3.1 空間のゆとり		階高=4.25m 壁長さ比率=0.29	4.6	0.30	-	
1	階高のゆとり		5.0	0.60	-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	
Q3 室外環境(敷地内)				0.30	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						3.4
LR1 エネルギー				0.40		4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.68	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.61	4.9	0.50	-	4.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	
集合住宅の評価					-	
4.1	モニタリング				-	
4.2	運用管理体制				-	
LR2 資源・マテリアル				0.30		2.4
1 水資源保護			2.2	0.20	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満、GWP=50未満	4.0	0.50	-	
3	冷媒		2.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境				0.30		3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率を72%	4.1	0.33	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.33	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	